

JACS NEWSLETTER

日本消費者行動研究学会ニューズレター

第27巻第2号

発行日●2019年7月19日

発行●日本消費者行動研究学会事務局

第59回 消費者行動研究コンファレンスのお知らせ

秋の消費者行動研究コンファレンスの開催日程が決定しましたので、ご案内いたします。現在、コーディネーターの三浦俊彦先生（中央大学）を中心としてプログラムを検討中です。詳細については次号で再度お知らせいたします。いましばらくお待ちください。

開催日程：2019年10月26日（土）・27日（日）

開催場所：神戸学院大学・ポートアイランドキャンパス（神戸市中央区）

自由論題研究報告など募集！

秋のコンファレンスにおける自由論題研究報告の報告を募集します。募集の詳細は、JACS Web サイト（<http://www.jacs.gr.jp/>）をご覧ください。

第58回 消費者行動研究コンファレンス 開催報告

<統一論題>いま私たちは、どのように消費者を捉えたら良いのか？

2019年5月11日・12日に、上智大学四谷キャンパスにおいて第58回消費者行動研究コンファレンスが開催されました。今回のコンファレンスでは1日目にラウンドテーブルと会長講演が行われ、2日目には自由論題報告が行われました。

1日目のラウンドテーブルでは「いま私たちは、どのように消費者を捉えたら良いのか？」という統一論題にそって、2つのラウンドテーブルが行われました。前半のPart1では「専門家たちは消費者をどう捉えているのか？」というテーマで、消費者庁表示対策課長の元元慎二様、HASHI inc.の橋田和明様、リクルートライフスタイルの大原一輝様、そして本学会元会長の高橋郁夫先生によって活発な議論が展開されました。後半のPart2では日本におけるセンサリー・マーケティング研究の第一人者である須永努先生（関西学院大学）および朴宰佑先生（武蔵大学）と、認知心理学をベースとした消費者行動研究者である新倉貴士先生（法政大学）や松下光司先生（中央大学）によって、学術的な議論が行われました。さらに2つのラウンドテーブルに続き、新会長である秋山学先生（神戸学院大学）によって会長講演が行われました。

2日目は2つの会場に分かれて、合計11本の研究報告が行われました。全体としてバラエティに富んだテーマ構成であり、日本消費者行動研究学会らしい報告会でありました。

—JACS—樫尾俊雄 論文プロポーザル賞 優秀賞—

「非線形測定モデルに基づく構成概念妥当性の検証方法に関する研究」

佐藤平国（東北大学大学院）

この度は、第 18 回 JACS—樫尾俊雄論文プロポーザル賞優秀賞をいただくことができ、大変ありがたく思っております。

この研究は、私が修士課程で取り組んでいた非線形測定モデルの応用に関する研究と、学部生の頃からお世話になっている中村陽人先生（前・福島大学、現・長野県立大学）が取り組まれていらっしゃる測定尺度の構成概念妥当性に関する研究からヒントを得たものです。

研究にあたっては、指導教員の照井伸彦先生から多大なご支援をいただくとともに、同ゼミ生や、サブゼミとして出席してお世話になっている石垣司先生と同ゼミ生、そして中村先生から、様々なコメントをいただきました。また、現在は卒業されている留学生の Ding Ningyuan さん（研究当時、照井ゼミ在籍）とは、測定尺度を使って構造方程式モデリングを行いたいということで、彼女の修論執筆のために一緒に勉強したことも、非常に良い経験になったと思っています。

測定尺度や測定モデルの研究は、もともと計量心理学から始まりました。その応用研究は社会科学の領域で広く行われるようになり、マーケティングや消費者行動研究でも独自に尺度やモデルが開発されています。しかし、現在、消費者行動研究でも主流となっている妥当性検証手法は、関連領域であるマーケティング分野から提案されたものでありながら、その意味合いの理解や重要性の認識は非常に低いようです。

そのため、この研究ではまず、測定モデル（因子分析モデル）が何を表しているのかを見つめ直し、測定モデルと信頼性、妥当性との関係性を改めて議論しています。また、これまで線形測定モデルで検証することのできなかつた理論を反映させたり、より現実的な仮定を取り入れたりするために、これまでの線形測定モデルによる妥当

性検証方法を、非線形測定モデル（非線形因子分析モデル）によっても柔軟に行えるよう考察したものです。

提案当時では、因子分析モデルの潜在変数に関する導関数と推定された因子得点を用いることで、これまでの指標を代替することを考えていました。現在では、統計的な妥当性を改めて考察することで指標を修正し、シミュレーションや実データでの検証などを経て、論文執筆に取り組んでいるところです。

近年、高度な統計手法や機械学習といった新たな手法の応用が様々な分野で活発に行われるようになりました。このような時代の中で、「統計モデルの妥当性の検証」という考え方やその方法の開発は、今後ますます重要になっていくのではないかと考えています。将来の研究では、ニューラルネットワーク（深層学習）やトピック・モデルの応用に関して、因子分析の検証的（確認的）分析のような使い道を考え、構成概念妥当性の考え方を拡張していきたいと考えています。

最後になりましたが、本研究に貴重なコメントを下さった審査員の先生方、学会およびコンファレンスの運営にご尽力下さっている皆様に、この場をお借りして厚く御礼申し上げますとともに、本研究にご支援下さった照井先生と同ゼミ生、石垣先生と同ゼミ生、中村先生、Ding さん、そしていまだに面倒を見てくださる私の家族に改めて感謝を申し上げたいと思います。私はまだまだ研究経験の日は浅く、自身の能力や技術も十分なものではありませんが、そのような私を支えてくださり、誠にありがとうございます。消費者行動研究をはじめ社会に貢献できる成果を残せるよう、より一層の精進に努めて参りたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

2018 年度決算報告および 2019 年度予算案

2019 年 5 月 11 日に開催された役員会および会員総会において、2018 年度の決算報告、および 2019 年度の予算案が下記のとおり承認・決定されました。ここにご報告いたします。

科 目	2018 年度			2019 年度
	予算額	決算額	差異	予算額
1) 収入の部				
会費収入	7,030,000	5,965,000	1,065,000	6,840,000
学術会員	4,570,000	4,110,000	460,000	4,580,000
学術学生会員	455,000	310,000	145,000	405,000
個人賛助会員	200,000	160,000	40,000	205,000
法人賛助会員	1,150,000	1,000,000	150,000	1,050,000
滞納等	655,000	385,000	270,000	600,000
コンファレンス収入	2,000,000	1,880,000	120,000	2,000,000
学会誌販売収入	160,000	126,014	33,986	160,000
雑収入	0	126,333	-126,333	0
助成金	500,000	500,000	0	500,000
収入合計	9,690,000	8,597,347	1,092,653	9,500,000
2) 支出の部				
印刷費	400,000	338,698	61,302	400,000
ニューズレター	400,000	338,698	61,302	400,000
事務費	940,000	1,485,191	-545,191	1,000,000
学会誌印刷・発送一式費	500,000	915,965	-415,965	500,000
通信費	140,000	150,475	-10,475	150,000
Web ホスティングサービス利用費	100,000	52,704	47,296	100,000
その他	200,000	366,047	-166,047	250,000
事業運営費	4,800,000	3,535,345	1,264,655	4,550,000
コンファレンス支出	2,000,000	1,786,367	213,633	2,000,000
コンファレンス開催費(開催校補助費)	400,000	400,000	0	400,000
コンファレンス会場費	-	-	-	270,000
学会誌作成費(査読謝礼費)	300,000	207,458	92,542	250,000
査読システム運用費	250,000	129,600	120,400	250,000
学会誌サポート費	500,000	541,920	-41,920	550,000
国際交流事業費	250,000	250,000	0	250,000
ワークショップ開催費(開催補助費)	600,000	120,000	480,000	480,000
プロポーザル賞賞金	500,000	100,000	400,000	-
学会賞賞金	-	-	-	100,000
予備費	3,550,000	3,285,606	264,394	3,550,000
出版システム開発費	250,000	0	250,000	250,000
事務委託費	3,300,000	3,285,606	14,394	3,300,000
支出合計	9,690,000	8,644,840	1,045,160	9,500,000
当年度収支差額	0	-47,493	47,493	0
前年度繰越金	34,079,182	34,079,182	0	34,031,689
次年度繰越金	34,079,182	34,031,689	47,493	34,031,689

上記の通り報告いたします。

事務局担当理事 高橋 広行 印

上記の報告を適正なものと認めます。

監事 松井 剛 印

学会費の「銀行振込み」についてのお願い

銀行振込をご利用の場合、大学名や企業名などの「組織名」から入力されますと、振り込みました「個人名」が特定できないというケースが出てきます。「銀行振込」の際には、必ず「個人名」から記入していただきますよう、ご協力をお願い致します。

やむを得ず組織名から（または組織名のみ）の振込人名になる場合は、事務局まで e-mail にてご一報いただきますようお願い致します。

ご所属・ご住所の変更についてのお願い

★ご登録の所属先等が古いままで、更新されていない方が多く見受けられます。

ご所属やご住所が変更となる際には、必ず JACS 事務局へご連絡ください。お手数ではございますがよろしくお願い致します。

また、「郵便局の振込用紙」に変更箇所を明記されるケースが見受けられますが、変更のご連絡は、下記 JACS 事務局までお願い致します。なお、ホームページからご自身で直接、変更可能ですので、是非ご活用ください。

新入会員の募集について

本学会への入会を希望される方は、ホームページから入会申込書をダウンロードの上、必要事項を記入、捺印の上、事務局まで郵送でお送り下さい。

●入会資格

[学術会員]

消費者行動の研究・教育に従事する大学の専任教員、大学院在籍者（在籍経験者を含む）、およびそれに準ずる者（文部省が学術研究団体と認める学会の正会員、大学の非常勤講師としての教歴を有する者、等）。但し、学術会員 2 名の推薦が必要。

[賛助会員]

本学会の趣旨に賛同する法人および個人。

●年会費

[学術会員] 10,000 円

（但し、大学院生は 5,000 円に減免）

[賛助会員] 個人会員 1 口 5,000 円

法人会員 1 口 50,000 円

●日本消費者行動研究学会(JACS)事務局のご案内●

(事務局) 同志社大学 商学部 高橋広行研究室
〒602-8580 京都府京都市上京区今出川通烏丸東入
Email: jacs.assist@gmail.com

(事務取扱) 日本消費者行動研究学会 事務取扱
〒112-0012 東京都文京区大塚 5-3-13 小石川アーバン 4F
一般社団法人 学会支援機構内
Tel: 03-5981-6025 Fax: 03-5981-6012 Email: jacs@asas-mail.jp

<JACS Website> <http://www.jacs.gr.jp/>